

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームあさひA)

事業所番号	0270101720		
法人名	有限会社大裕		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	青森市大字四ツ石字下川原25-9		
自己評価作成日	平成23年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・温泉つきのグループホームということで、利用者より好評を得ています。  
 ・利用者の健康維持・向上やアットホームな環境を作るため、私達は『思いやりのある生活空間』の理念のもと、日常生活の中で利用者、職員皆家族という気持ちで触れ合い、信頼関係を築いています。  
 ・住み慣れた環境のもとで家族や地域の方々とのふれあいを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年11月25日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、職員一人ひとりが理念の意味をどのように理解しているのか、ミーティング時に職員同士で話し合い、確認をする等して、理念の共有化に努めている。  
 職員が代表者や管理者に気軽に意見を述べやすい雰囲気があり、代表者や管理者は職員の意見を運営に活かすようにしている。  
 また、ホームの風呂は天然温泉であり、希望すればいつでも入浴することができ、利用者は入浴を楽しみにしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>日常的にミーティングの機会を捉え、管理者が具体的な援助姿勢について確認を行っている。職員は「思いやりのある生活空間」という理念を念頭に置き、日々ケアを提供している。</p>	<p>代表者は地域密着型サービスの役割を踏まえ、その思いを表現した理念を作成している。管理者及び職員は、毎月のミーティングで理念の意味を話し合い、共有化を図ると共に、利用者の思いを受け止め、日々のサービス提供に反映させている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>学期始まりの1週間、交通の危険区域に立って子供たちの安全を守ったり、率先して除雪を行う等、地域貢献に努力している。また、散歩時には挨拶を交すなど顔馴染みの関係ができており、住民の理解が得られている。</p>	<p>地域住民にホームの納涼祭への参加を働きかけたり、近くの保育園との交流や、小・中学校の生徒の訪問の受け入れ等を行っている。また、日頃から町会班長を通して、地域住民にホームに気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域とコミュニケーションを図るため、歌謡ショーや公民館祭り等に参加や招待をしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所の活動内容や利用者の生活の様子を細かく伝えると共に、事業所の課題について報告し、意見を仰いでいる。</p>	<p>ホームの運営や利用者の状況を報告したり、自己・外部評価結果や目標達成計画についての説明を行い、メンバーから意見を引き出すように努めている。また、出された意見を検討し、改善等につなげている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録を提出し、現状を報告している。また、適宜、市担当課から福祉政策の連絡や指導を受けている。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加している他、市の担当課へ自己・外部評価結果や目標達成計画を提出して報告を行っている。また、課題解決にあたっては関係する部署と連携を図っているが、パンフレットや広報誌の配布は行っていない。</p>	<p>パンフレットや広報誌を配布することにより、ホームの取組みをより理解してもらえるような働きかけにも期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>勉強会等で身体拘束の具体的な行為を理解するよう努めている。</p>	<p>身体拘束の内容や弊害については勉強会で理解を深め、「身体拘束をしない宣言」をホーム内に掲示し、その姿勢を明示している。玄関や居室は施錠しないようにし、利用者の外出傾向を察知した時は、職員が付き添い、外出するようにしている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等の同意を得て、理由や方法等について記録を残している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者から指導を行い、職場内で学習会を開き、対応している。機会を設け、外部への研修参加をしていきたい。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>地域包括支援センターと交流を持ち、必要な助言をいただいている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>当ホーム内において、重要事項を利用者や家族に十分に説明し、必要に応じて疑問点や不安点を尋ね、理解と納得を得られるように取り組んでいる。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話、投書にて苦情や要望に関する受付を行っている。利用者や家族には行政機関にも苦情の窓口があることを伝えている。</p>	<p>職員は日常の利用者とのコミュニケーションの中で意見を引き出したり、察したりするように努めている。また、利用者や家族にはホーム内外の苦情受付窓口を明示し、出された意見や苦情は速やかに処理し、運営に活かす体制を整備している。</p>		

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを行い、代表者・管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。	代表者や管理者はミーティング等の場で職員から運営に関する意見を聞き、出された意見を検討して反映させている。また、職員が全利用者との馴染みの関係になれるよう、別ユニットで勤務する日を設ける等の工夫をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績を見て、その人に合わせた職場環境づくりに努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を見つけ、職員に参加を促している。また、毎月勉強会を開くように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	圏域内のグループホームとの部会を結成し、事例検討会や交流会の場を設け、ネットワークの形成、相互評価を行い、サービス向上に努めている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に本人から話を聞き、どうしてもらいたいのか等の要望を把握し、本人と家族に安心してもらえるように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームの環境面やサービス面、利用者にとって安心できる生活空間作りを目指していく旨、家族に伝え、安心感を持てるように努めている。また、家族が抱えている問題や不安も受け止め、迅速に解消できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族に不安な事を尋ね、それに対して何をしてもらいたいのか、希望・要望を聞くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、レクや個別リハビリを通じ、利用者に共感できる機会を設ける等、共に楽しく過ごせる工夫をしており、毎日がマンネリ化しないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて家族の意向を聞いたり、利用者の希望や要望を伝え、家族と利用者の相互関係の構築を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も自由であり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	利用者の馴染みの人や場所については、本人や家族から話をよく聞いて把握しており、知人等との面会や電話・手紙でのやりとりを支援している。また、墓参や馴染みの店での買い物等、希望する場所に出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係を持てるように、職員が間に入り話題を提供し、孤立しないように支援している。また、居室で過ごすことが多い場合は、居室で会話する等し、利用者が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の事等の相談を受け付ける旨、説明している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、関係者から生活歴を聞き取り、背景を理解した上で生活の様子を細かく観察している。また、思いを引き出すようなアプローチを行いながら、その人らしく暮らせるよう支援している。	利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努め、十分把握できない場合にはミーティング時に全職員で話し合う等して把握に努めている。また、家族からも面会時に情報収集を行っており、利用者の視点に立って取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から様々な話を聞いている他、今までどのような生活をしてきたのか、どのようなサービスを受けられたのか等を、担当のケアマネから聞き取り、把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	マニフェストに基づいてリハビリ体操を行い、天気の良い日には外気浴等をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話連絡で家族から意見や要望を引き出し、本人の意向を把握しながら、全体ミーティングで全職員が意見を出し合った上で計画を作成している。	利用者や家族、職員から意見を聞き、ミーティング時には職員で話し合いを重ね、介護計画を作成している。実施期間終了後は見直しを行い、その際はモニタリングや関係者の再アセスメントを行っている。また、利用者等の状況の変化時は、随時の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	設定期間の見直し等は、本人や家族から新たな要望が出たり、状態に変化が見られた場合に、その都度職員間で話し合い、行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターやコンビニエンスストアを活用し、支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療があり、その結果を定期的に家族に報告している。また、本人や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。	利用者や家族が希望する医療機関や協力医療機関の認知症専門医、歯科等を受診できるよう支援している。また、受診結果は随時、電話や面会時を利用して家族へ報告しており、必要に応じて家族も含めた医療機関との話し合いも行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の往診の他、体調不良等が見られた際は担当の看護師に報告し、指示を仰いでいる。また、当ホームの看護師との連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院関係者と情報交換をし、できるだけ早期に退院できるように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	月2回の訪問診療で日常的な健康管理を行っている。急変時は協力医療機関から指示を受け、経過を家族に報告している。	ホームとして重度化や終末期に対応する指針を定めており、家族や医療機関と連携して支援していく体制を整備している。また、家族等とは早期から重度化や終末期の対応について話し合いを行い、意思を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って、事業所独自に年2回の消火避難訓練を行っている。地域の消防が定期的に査察で来訪しており、指導を受けている。	昼夜を想定した避難誘導策を作成し、年2回、職員と利用者が一緒に避難訓練を行っており、災害時は近隣住民の協力が得られるよう、町会班長を通して働きかけられている。また、設備点検は業者に委託して定期的に行っており、災害時に備えて食料や水、必要な物品等の備蓄に努めている。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護には細心の注意を払い、記録物の保管についても、安易に第三者の目に触れないように管理している。個人の人格の尊重や尊厳を保持すべく対応姿勢についても、全体ミーティングで管理者を中心に確認している。	利用者の言動を否定しないよう心がけ、利用者への呼びかけ方は本人や家族と話し合っている。また、排泄誘導時の声かけは他の利用者に気づかれないよう配慮し、排泄や入浴時の見守りはさりげなく行うように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で話し合い、本人の気持ちを聞き入れ、できる限り自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大まかに決められているものの、個人のペースを優先し、グループ活動への誘いについても本人の決定に任せて、柔軟に対応している。居室で過ごすことを望む利用者に対しても、安全を確認しながら適度な距離を置き、見守りを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞き、身だしなみに気をつけている。また、希望に応じて月1回の訪問理容をしていただいている。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳等、できる部分を協働しながら、食事につなげている。		利用者の好き嫌いを把握し、献立に反映させている。また、利用者の意思に応じて、食材の下ごしらえや食器洗い等の後片付けを手伝ってもらい、職員も利用者と一緒に席で、声かけや会話をしながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は女性スタッフが作っており、カロリー計算は行われていないものの、保健所に確認してもらい、過不足無く、良好との回答を得ている。午前・午後のおやつの中には、個々の嚥下状態に合わせた補水を必ず行い、脱水を防いでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き誘導、夜間は義歯洗浄剤を使用して消毒している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛けや誘導を行っている。利用者に合わせて夜間のみリハビリパンツを使用し、日中はなるべく綿パンツを使用してもらうように取り組んでいる。		一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、日中は事前誘導を行い、夜間はリハビリパンツを使用する等して自立に向けた支援を行っている。また、オムツを使用している利用者がオムツ使用を継続するか否かをミーティングで話し合い、検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の中には、下剤に頼らず、乳製品で便秘の改善に努めている方もいる。便秘がちな方には腹部マッサージや、日課としている健康体操にて改善に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	天然温泉で、いつでも入浴できる状態であり、週3回以上は入浴を実施している。浴室も広く、仲の良い利用者同士と一緒に入り、寛ぎの時間を共有することがある。		入浴日は週3回であるが、利用者が希望すればいつでも入浴することができ、シャワー浴や足浴にも対応している。入浴時は、利用者の羞恥心に配慮しながら見守りを行い、必要に応じて洗身介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が、利用者一人ひとりのその日その時々状況を見て、休息させたり、安心して気持ちよく眠れるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが、薬の内容をよく把握するように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を細かく聞き取り、日々の様子を観察しながら得意分野を把握し、生活の中で役割を持っていただいている。行われた行為に対しては、職員は常に感謝の声掛けをし、利用者が意欲的に生活できるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画された外部行事の他、買い物レクや天候に合わせて散歩に出る等、外出の機会を設けている。	利用者の希望に沿って、花見や紅葉狩り等の外出行事や買い物、散歩等の外出機会を設けており、車いす利用者の移動にはリフト車を用意して支援している。また、利用者が外食を希望した場合は、家族に協力をしてもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、本人に所持してもらっている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙の書ける利用者には、それぞれ自由に行っていたりしている。また、家族からの電話も本人につきなげ、話をしている。			
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には職員と一緒に作った折り紙や花を飾ったり、隣の保育園の子供達と一緒に行った敬老会の写真等を掲示している。	食堂ホールは吹き抜けで開放感があり、くつろげるよう畳敷きの居間やソファを用意している。室内は日射しや照明で十分な明るさがあり、パネルヒーターで適温を保っている他、湿度を計って加湿器で調整している。また、作品や写真、歳時の物を飾って、季節を感じることができるよう工夫している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、会話をしたりして過ごすリビングがあり、職員を交えて談話する等、暖かな環境づくりを行っている。			
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が使っていた物を持ってきたり、思い出の品を置く等、工夫している。	家具や電化製品、写真等の馴染みの物を自由に持ち込んでいる。また、持ち込みが少ない利用者については、職員と一緒に飾りつけ等をして居室作りを行っている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付けたリ、ベットには落下防止用の柵をつける等している。夜間トイレに行けない方はポータブルトイレの使用を行っている。			